みんなの広場

ところざわの暮らし 今昔 ⑨

正月～歳神様を迎えて～

正月は、新しい年の初めに訪れる歳神様（年神様とも書く）を迎える大切な行事であります。歳神様は、歳徳神と言ったり、親しみやすく正月様と言ったりもします。歳神様は遠いところからやってくると信じられ、その方角はその年の恵方であるといいます。

入間地方では、歳神様はユズリハに乗ってやってくるといった言い伝えがあります。また、山から「お松迎え」といって、かつては歳神棚や門松に用いる松を山に採りに行く風習が広く行われていたことから、歳神様は山からやって来るという考え方もあります。

ところで、歳神様はどんな神様かというと、人々に幸せをもたらし、その年の農作物の豊作や豊漁などを約束してくれる神様といわれています。年男は、この大切な神様を迎えるにあたり、朝風呂に入って身を浄め、正装して供え物をあげ接待するのです。

歳神様は、毎年特設の歳神棚を設けて祀ってきました。今では歳神棚を設ける家は見られなくなりましたが、以前は歳神棚に幣束を立て、オソナエと呼ぶ鏡餅を供えてきました。今でも鏡餅は供えますが、この餅を食べることによって歳神様の力をいただくと考えられてきました。

正月の家庭での食べ物は、餅の入った雑煮が一般的ですが、この地方ではイモズイモノといって里芋と大根を醤油や味噌で煮たものを食べる伝統もあります。所沢の正月料理では、大根と里芋が古くから重視されてきました。

正月には１月15日を中心とする小正月もあります。小正月は暦が旧暦であったころの正月で、小正月にはマユダマ（繭玉）飾りがたいがいの家で行われてきました。かつて盛んに行われていた養蚕が当たるように、あるいは農作物がこのように豊かに実ってほしいと、歳神様に目に見える形でお願いしたのです。（大舘）

▲マユダマ飾り

ところざわ町内会めぐり

【新所沢東地区・弥生町町会】

～住んでよかったという町に～

弥生町は、航空公園駅と新所沢駅のほぼ中間に位置し、東側は航空公園通りに接し、西側は西武新宿線に面している落ち着いた住宅地です。町の北側にあり西武線と立体交差している道路を挟んだマンション地区とその南側にのびる低層の戸建て地区がきれいに共存している町です。平成８年以降の新築マンション入居の方にも、町会に全戸入会していただき、現在会員数は約750世帯です。

町会では、地区計画という制度を活用して、今のよい住環境を維持するため市と協働で作業を進めています。

また、弥生町には「街づくり憲章」があります。これは、『心のふれあい』『景観』『ルールを守る』『防災防犯』という４つのことをお互いに大事にして生活していきましょう、という約束ごとのようなものです。この憲章は、弥生町に住んでよかったという人を１人でも多くしたいとの願いから、昨年４月に制定しました。

町会の２大行事は、夏の納涼大会と秋の文化祭です。文化祭は昨年で11回目を迎えました。町会館を会場として、書・絵画・写真・工芸・手芸・盆栽など、さまざまな分野から丹精こめられた作品が多数出展され、素人の域を超えたレベルの高いものとなっています。また、隣の和室には茶菓子を用意し、語らいの場としています。文化祭がきっかけとなって、手芸クラブが誕生するなど年々親睦の輪が広がっています。

今後も、みんなが住んでよかったという町を目指していきたいと思います。

文化祭のようす

街の写真館

▶「犯罪のない街づくりに向けた地域合同ふれあい清掃」に、並木小学校児童・所沢警察署をはじめ、近隣の15団体が参加しました。11月22日㈫／航空公園駅前・並木通り

◀「地球温暖化ストップ」と「ごみゼロ」をテーマにさまざまなイベントが開催された“環境フェスタSAITAMA 2005 in 所沢”。12月３日㈯／市民文化センター・ミューズほか

▲息が白く残る寒さの中、全国から集まった4,156人のランナーたちが、初冬の狭山丘陵を駆け抜けました。「第16回所沢シティマラソン大会」（撮影／市民カメラマン・池田敏明）12月４日㈰／インボイスSEIBUドーム周辺

はつらつ野老っ子

人命救助の競技「ライフセービング」

青木　麻佑美さん（けやき台在住）

人命を守るため、キラキラと輝く海を泳ぎ、灼熱の砂浜を走る真っ黒に日焼けした若者たちといえば、それはライフセーバーです。

夏の風物詩ともいえる彼らですが、シーズンオフには何をしているのでしょうか。

今回は、昨年11月に香港で開催された『アジアライフセービング室内選手権大会』に日本代表選手として出場を果たした青木麻佑美さん（日本体育大学３年生）を紹介します。

同大会には、７か国から80人の選手が参加し、青木さんは水中に沈む60kgのマネキンの救出や、要救助者に見立てた人形を救助する“200mスーパーライフセーバー”という種目で、大会中に一時は日本新記録を更新しました。

競技中の青木さん（左）

泳力だけではなく、水中での救命器具の装着や水面搬送時の気道確保姿勢の維持など、高度な技術を要求される競技です。

「実際の救助の場面では、少しのミスが人命を左右します。競技といえども失敗は許されません」と、その表情は真剣そのものです。

個人と団体の計４種目に出場した青木さんは、女子選手最年少ながら日本チームの総合優勝に大きく貢献しました。「みんなで厳しい練習を乗り越え、一番高い表彰台で日の丸を見る喜びを分かちあったときは、本当に感激しました！」と、目を輝かせます。

「勝つためにプレーするのではなく、人を助けるためにプレーするところがこの競技の最大の魅力です。また、水難事故が起きないように地道に監視・注意活動をすることがライフセーバーの本当のプレーです」と、ライフセービングの魅力を熱く語ります。

そんな青木さんには、夢があります。海がない埼玉の子どもたちに、海での泳ぎ方や救助方法を教えること、将来は中学校の体育教師になって“広い視野と大きな心”をモットーに子どもたちと一緒に成長することだそうです。「次の目標は？」との問いには、「もちろん、世界選手権出場です！」とキッパリ。

どうやら、ライフセーバーにシーズンオフはないようですね。

防災チェック

～「防災とボランティアの日」ってなに？～

子ども：１月17日は「防災とボランティアの日」なの？

お父さん：そうだよ。平成７年１月17日の阪神・淡路大震災のことは覚えているよね。あの地震では、建物や道路などが壊れ多くの死傷者が出る大変な災害になってしまったんだ。

子ども：どうして「防災とボランティアの日」というようになったの？

お父さん：そこで、全国各地から多くのボランティアの人たちが集まり、さまざまな活動に参加してもらい、復旧支援にあたったんだよ。阪神・淡路大震災では、延べ117万人のボランティアが集まったんだ。そして、この災害によって、ボランティア活動に対する認識が高まって、国が１月17日を「防災とボランティアの日」と決めたんだよ。

子ども：そうなんだ。地震の備えも大切だけど、ボランティア活動を行うことも大事なことなんだね。

お父さん：日ごろから、みんなで助け合う気持ちを忘れないようにね！

問い合わせ　危機管理課（☎2998-9399・FAX2998-9042）

誰でもエッセイ

テーマ　わが家のお正月

家族の愛・絆

若狭・近藤　三七雄

私の生家は農家。兄弟姉妹は８人で私は下から３番目。そのころのわが家は、長兄が家を継ぎ、あとの兄弟姉妹は外に出て独立するのが家訓であった。

そのため、わが家のお正月は、外に出た私たち兄弟姉妹が一同に生家に集まり、ご先祖様に感謝のあいさつをし、それからおせち料理を食べながら夜が更けるまでわいわいがやがやと語り合い、家族の愛・絆を深めるのが楽しみになっていた。

でもその慣習も、やがて父母、長兄が他界し、私たちも年をとり自然消滅。

入れ替わり、今度は私たちが自立させた子どもたちを歓迎する側になった。子どもたちに、いつも慕ってもらえる親になるには日々勉強だが、家族愛はとても大切なことなので、正月行事に限らず大事にしたいと思っている。

正月は、のんびりと

小手指町・原　京子

人生も半ばを過ぎると月日の経つのが早く感じられ、お正月がせかせかと御用聞きみたいにやってくる。

毎年元旦は暗いうちに起き出し、10分程歩いた所にある初日の出が拝める慣例の場所へ出かける。ここ数年ビルが建ち並び少し見えにくくなったものの、数十名が集まり初日の出を拝む。その足で北野天神社へ初もうでに行く。

８時過ぎに家にもどり、お雑煮・おせち料理・熱かんでお正月を祝い、分厚い新聞を読み、年賀状の整理やテレビ三昧で、のんびりと元日は過ぎていく。

２日・３日は里帰りした子どもたち家族とにぎやかに過ごし、来て良し帰って良しを実感する。

無事にお正月が過ごせた安と感と、今年も１年健康に過ごせるよう祈りながら、すこぶる平々凡々なお正月を、これが何よりの幸せと感謝して終わるのが、わが家の毎年のお正月なのです。

わが家のお正月

こぶし町・高井　寿子

お正月には、幼稚園児のひ孫が、わが家にやって来ます。去年は、「おめでとうございます」と言ったり、仏壇に手を合わせて「おじいちゃん、今日はよろしくね」と生意気ぶったりしていました。

手作り料理を並べたお膳に座れば「ウマイね、ウマイね」とパクパク。やがて満腹になると、首からさげている布袋を取り出します。「可愛いね、何が入っているの？」と聞くと、「ちがうよ、お年玉を入れるの」と答えます。さらに、「紙のオカネは、大人だけだから、玉のオカネがいいの」と言いながら、わが家に集まった24人から『玉のオカネ』をもらって歩き、大事そうに抱えていました。

今年のお正月は、ひ孫が「紙のオカネがいいの」なんて言い出すかしら？

ダルマの目入れ

小手指町・髙橋　馨

正月３日は初もうでを兼ねてダルマ市を回るのが恒例となっている。１年間家内安全と安泰を見守ってくれた古いダルマを納めるのは感慨的な気分にもなる。

独立した長男長女もそれぞれ家族３人となり、全員そろって新しいダルマの目入れをするのも正月の行事となっている。

妻の手作りのおせち料理も好評で、孫２人を笑いの種にささやかな会となる。

毎年同じような代わり映えのしない正月ではあるが、これで今年１年も平和に過ごせるように思える貴重な１日となる。

～孫の呼ぶ　爺ジ婆バて　老いを知り～

次回のテーマは「初夢」です

▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削なし▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「初夢」▶締め切りは１月11日㈬必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１-１-１　所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係　◎Eメール（アドレスa9024@city.tokorozawa.saitama.jp）も可。